

住吉公園のおにぎり

ジョニー

この話は、今から四年ほど前の話です。
僕はその頃、前の会社をやめて、もらった給
料も飲み喰いに使ってしまったのです。
要するに一文なしだったので。

昼は住吉大社近くの住吉公園から、ミナミの
なんばやキタの梅田辺りまであてもなく歩く
のが日課でした。

路上での生活二日目の、土曜日の夜でした

住吉公園の入口近くのベンチ、
といつても
昔も夫れのない石できたベンチに古新聞をし
いてふとんがわりにハイキングに行った時や
ギヤンプなどに使うアルミシートをかぶって
寝ていました。

何時ごろかは忘れてしまっただけで、
もし
もしと声をかける人がいました。

あのう、これよかったですら食べてください

とラッパにつつまれたおにぎりをくねました。
僕は「ありがとう」と言っておにぎりをもらいました。

彼らは路上生活者に食べ物を配ったり話を聞いたりするボランティアの人達でした。

「何かあればここに連絡してください」と紙をもらいました。

彼を見送りながら、眠ろうとしたけれど涙が止まらず、もらったおにぎりを握りしめながら「ありがとう、がんばるよ」と心に誓いました。

ました。

あみから四年という月日が経ち、西成のサポートハウスに住み、週末は「いっしょに住んでいるおじいさん達とカラオケを楽しむよ」うになりました。

近ごろ人と話す時、こんな言葉が必ずでてきます。

「人生ってさ、生きるというより生かされてるんやな」と

僕は今、一日一日を明るく楽しく生きる事

3
にしています。

沖縄の方言に「又チドラタカラ、命が宝
という言葉があります。

命ある限りに人生を悔いなく生きていきま
す。

夢は大きく希望をもつて西成のジョニーと
してがんばります。

3
夢は始まったばかり

2013. 3. 19

Johnny

講評

人生いまいちど生まれた直した瞬間の物
語。そのときに「西成のジョニー」さんは
誕生したのですね。少しでも、「生かされ
ている」割合より「生きている」割合を増
やしていけるといいですね。最後のサイ
ン、カッコイイ。(選者・星野)